豊中市
埋蔵文化財年報

THE ANNUAL REPORT '95

SECTION OF CULTURAL HERITAGE MANAGEMENT, TOYONAKA CITY

VOL. 5
March,1998

豊中市 埋蔵文化財年報

1995年度版　VOL.5

豊中市教育委員会

表紙写真：小曽根遺跡第19次調査の庄内期集落
裏表紙図：曽根遺跡第５次調査出土土器の墨書

はじめに

豊中市は大都市圏に隣接する商工業地あるいはベッドタウンとして発展を遂げてまいりましたが、その背景には千里丘陵の豊かな緑や猪名川を中心とした水の恵み、そして数万年にもおよぶ我々の祖先の暮らしがあったのです。我々が暮らす大地の地下にはいたるところにこうした古代の生活の痕跡が残されており、豊中市では我々の生活の基盤となったこれらの文化遺産を文化財保護法の精神に則って、発掘調査という形で記録にとどめようとしています。平成７年度は阪神・淡路大震災という未曾有の災害からの復旧、復興を豊中市全体として目指す中で、被災した建造物を中心とする指定文化財の修復をはじめとして、増加した埋蔵文化財の調査にも全力を傾けてまいりました。本書に掲載された成果が貴重な文化遺産の保護や、地域社会の発展にわずかながらでも役立てば幸いです。

平成10年（1998年）3月

豊中市教育委員会
教育長　栗原有史

例　言

1．本書は平成７年度（1995年度）の豊中市教育委員会が行なった埋蔵文化財に関する事業と、調査成果の概要を報告するものである。
2．発掘調査のうち、通常の国庫補助事業、震災補助事業については、豊中市教育委員会が主体となって実施した。また公共及び民間開発に伴う発掘調査に関しては、亥野　彊氏（神戸国際大学、神戸山手短期大学、堺女子短期大学非常勤講師・日本考古学協会会員）を団長として、調査ごとに調査団を編成し、実施した。
3．本書の編集・執筆は、社会教育課文化財保護係職員が分担して行なった。また一部の文末にその責を明らかにした。
4．発掘調査を行うにあたり、土地所有者、施工業者ならびに近隣の皆様からは御協力と御理解を賜わった。ここに篤く感謝するものである。
5．本書の製作にあたり、㈶大阪府文化財調査研究センター　三宮昌弘氏より御協力をいただいた。
6．第Ⅰ章「市内における開発と埋蔵文化財の調査」中の遺跡分布図の縮尺は50000分の14である。
7．第Ⅰ章「市内における開発と埋蔵文化財の調査」中の調査地点位置図の縮尺は10000分の14である。

目　次

Ⅰ　市内における開発と埋蔵文化財の調査……1
Ⅱ　平成７年度（1995年度）の発掘調査の概要……29
Ⅲ　普及･啓発事業と刊行物……51
Ⅳ　クローズアップ’95……55